

🎵 会長コラム 🎵

コロナ禍に思う

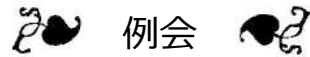
岡田 龍之介

緊急事態宣言が解除されたとはいえ、コロナ禍は依然収束の目処が立たず私達の日常生活に大きな影響を与え続けている。死者の数で言えばさほど大きな脅威でなく、感染者のうち重篤者の占める割合は僅かであるにもかかわらず、かつてこれほど大きな影響を経済、医療、文化など社会全体に及ぼした感染症はなかった。感染が短時間で世界中に拡散したこと、何が原因でそうした拡散やパンデミックが引き起こされるのか不明な点が多いことが人々の不安をかき立て、今日の未曾有の事態に至ったと言えよう。私達音楽家の活動もそのような状況下で大きな制約を受けることになり、演奏の場の激減、生活の逼迫、見通しの立たない将来に対して、多くの人が不安とストレスを感じながら過ごしている。

そのような中、少し前になるがテレビで「コロナ新時代への提言」という番組を見た。人類学者、哲学者、歴史学者がオンライン方式で鼎談を行うという趣旨の番組で、この種の番組といえば経済、医療の専門家と相場が決まっているのに、一見こうしたテーマには関係が薄いと思われる分野の学者が顔を揃えている点に興味をひかれた。しかしその内容は私の予想を上回る優れたもので番組が進むにつれどんどん引き込まれていった。それぞれの専門を極めた学者の考察は鋭く、その妥協のない透徹した見解は時に酷と思えるほどであったが、コロナという未知の現象に直面し人類に何が起きているのか、さらにこのコロナ禍の先にどういう将来が待ち受けているのかを曇りのない眼で見据え見事であった。特に私が衝撃を受けたのは、アガンベンという哲学者の考えを紹介したくだけで、「生きる」ということだけが唯一の価値となったこの状況で、死者は家族に看取られることも許されず、低開発国においては死体が路上に放置され埋葬の権利すら剥奪される...そのような死者に対する尊厳、更には人間に対する敬意といった価値を喪失した社会というのは一体どういうことになるのか、それは本当に生きるに値する世界と言えるのか、というものであった。誰もが感染の恐怖から逃れようと必死になっている現在、暴言とも取られ兼ねない発言であるが、コロナという現実の中で人々が精神的なものを見失い、単なる物質に転落してゆく様子に大きな危機感を抱いた碩学の偽らざる心情であろう。コロナという「見えざる敵」が脅威なら、精神的荒廃も矢張り目に見えない一種の脅威であることに変わりはあるまい。(余談だが「三密」という言葉も本来は仏教用語であるが、それがこのコロナ禍のもとで全く異なる意味合いで用いられるようになった。他人との接触を避けて出来るだけ孤立?せよ、という現代版「三密のすすめ」にも、宗教という人間に救いをもたらすはずの本来の精神的な価値が希薄化ないし後退しているのが見て取れる)

目に見えないが価値あるものという点では、音楽も道徳や宗教と同格であろう。そしてコロナによって人々が孤立化し、東日本大震災の直後にあれだけ多くの人々の口の端にのぼった「絆」という言葉も知らぬ間に雲散霧消してしまった現在、それを解消し精神的な豊かさを取り戻すのに音楽、とりわけ生演奏が大きな力を秘めているのは言うまでもないだろう。徐々に諸々の活動その他の制限が解かれつつあるとはいえまだまだ予断を許さぬ状況ではあるが、演奏会が以前のように機能し、音楽が再び人の心に潤いをもたらす豊かにする日が一日も早く訪れることを願って止まない。





第44回例会（2020年度第1回例会）

* 第40回例会（2019年度第2回例会）のアンコール企画

【ゲネラルバスによるハーモニーの理論と実践

～ ハイニヒェンの和音決定に焦点を当てて ～】

2019.8.9 Salon de ぷりんしぱる（大阪）

講師：三島 郁

2019年8月、三島郁講師により大阪にて講演が行われましたが、他の地域での開催希望のお声もありましたことから、アンコール企画として2020年度の例会用に新たに動画を作成いただきました。

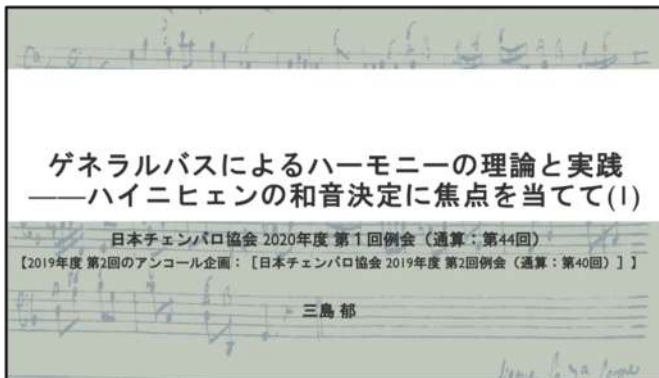
大阪例会ではバッハの通奏低音などの内容も含まれておりましたが、今回はハイニヒェンの著書の中で、理論と実践が交わる部分に注目したところを中心にお話しいただいております。

「パーティメント」について前半で触れていただいた後、A.スカルラッティのカウンタータの数字をつけていないバスについて、ハイニヒェンがその和音を根拠とともに説明しているところについてご紹介いただきました。その中でも特に、特殊原則では説明できない部分について、理論だけではなく、実践と組み合わせで論じている部分に注目しています。ハイニヒェンは伴奏者のレベルを「経験豊かな伴奏者」「訓練を積んだ伴奏者」「訓練を積んでいない者」に区別しており、原則通りの進行ができた上で、より美しいハーモニー、優美でノーブルな響きを考案できることの大切さを説いています。

2020年度中は日本チェンバロ協会 HP の会員専用ページで公開していますので、是非ご覧ください♪

☆ 『日本チェンバロ協会 オンライン例会』を検索！

<https://japanharpsichordsociety.jimdofree.com/member/>



2019年度第2回例会

☆ 次回、第45回例会（2020年度第2回例会）は、八島優講師によるWeb講座です。

【ドメニコ・スカルラッティに至るまでのイタリア鍵盤音楽の歩みと、ヘンデルへの影響】

言葉の意味するアフェット・情感と音楽の関わりを中心にお話しいただく予定です。

どうぞご期待ください！

（例会係）



『チェンバロ（フォルテピアノ）キーワード事典』（仮称）の刊行について

日本チェンバロ協会は2022年度に創立10周年を迎えます。記念事業のひとつとして、『チェンバロ（フォルテピアノ）キーワード事典』（仮称）を株式会社春秋社より刊行の予定です。事典の項目の執筆は協会員の方をお願いいたしました。

2020年9月の段階でほとんどの原稿が出そろい、現在、編集を鋭意行っているところであります。早ければ2022年春頃に刊行し、会員の皆様のもとにお届けできると考えております。どうぞお楽しみに。

以下に目次のページと執筆者一覧を掲載しておきました。ご参考になさってください。この作曲家が入っていない、この演奏家が入っていない、この項目がない、などご意見もあるかと思いますが、ここで編集方針をご説明することはできませんので、どうぞご容赦くださいますよう、お願いいたします。

ここでは2点だけ、お知らせしておきます。第4章：作曲家・演奏家と第12章：楽器製作者の掲載順ですが、生年でもって世紀ごとの分類をして、世紀内では姓のアルファベット順に掲載されています。また演奏者については現在存命の方のみ掲載していません。

コロナ・パンデミックもなかなか終息の兆しがありません。どうぞ皆さま、お体をご自愛くださいますように。

久保田 慶一（編集委員長）

目次

はじめに

本書の使い方

第1章 チェンバロ

1. チェンバロの構造と機構

響胴 ジャック プレクトラム レジスター ディスポジション フィート スケーリング 鍵盤ショート・オクターブ バフ・ストップ リュート・ストップ

2. チェンバロとその同族楽器

フサルテリウム クラヴィツィテリウム アルピコルド ヴァーシナル スピネット（エピネット） スピネットとミュゼラー オッタヴィーノと移調ヴァーシナル 移調二段鍵盤チェンバロ ラウテンクラヴィーア ペダル・チェンバロ

3. チェンバロの歴史と様式

初期北方様式 イタリア様式 フランダース様式 ラヴァルマン フレミッシュ・フレンチ 後期（18世紀）フランス様式 後期（18世紀）フランダース様式 （18世紀）イギリス様式 初期フランス様式 ドイツ様式 保守的様式
モダン・チェンバロ ヒストリカル・チェンバロ

第2章 クラヴィコード

1. クラヴィコードの発音機構と構造

発音機構 鍵盤 鍵盤楽器としての特殊性 タンジェント モノコード ベーブク ポルタート

2. 17世紀までのクラヴィコードの歴史

モノコードの集合体としての最初期のクラヴィコード 低音部がフレットフリー化された初期フレットド・クラヴィコード
16-17世紀の標準音域に拡大され、響板が鍵盤の右に出された初期クラヴィコード フレットド（ゲブンデン） フレットフリー（ブンド・フライ） 矩形フレットド・クラヴィコード

3. 18世紀のクラヴィコード

ダイアトニック・フレットフリー・クラヴィコード フレットフリー・クラヴィコード 4フィート付きクラヴィコード
音域 ペダル・クラヴィコード チェンバル・ダムール

第3章 ピアノフォルテ（ピアノ）・・・1830年頃まで

1. ピアノフォルテ（ピアノ）

ダルシマー コース

2. タンゲンテンフリーゲルまたは非回転式ハンマー・アクションのピアノ

タンジェント・アクション スクウェア・ピアノ

3. 回転式ハンマー・アクションのピアノ：1700年頃から18世紀中葉まで

クリストフォリによるアクション シュトスメヒャーニク エスケープメント バックチェック

4. イギリスとフランス（18世紀中葉から1830年頃まで）

イギリス式シングル・アクション イギリス式グランド・アクション ダブル・エスケープメント・アクション

5. ドイツとオーストリア：18世紀中葉から1830年頃まで）

ブレルメヒャーニク ウィーン式アクション ツークメヒャーニク カプセル ダウン・ストライキング・アクション

6. ピアノのストップ（音色切り替え装置）

チェンパロ・ストップ ダンパー・リフティング モデレーター ウナ・コルダ キーボード・シフト=フェアシーピング
パスーン（ファゴット）・ストップ バフ・ストップ ハープ・ストップ ソルディーノ イェニチェリ・ストップ（トルコ音楽）

7. ピアノの装飾

8. ベートーヴェンとピアノ

第4章 作曲家・演奏家

1. 15世紀

アデニヤン、ピエール パウマン、コンラート

2. 16世紀

ブル、ジョン バード、ウィリアム カベソン、アントーニオ・デ カヴァッツォーニ、ジローラモ カヴァッツォーニ、マルコ・アントーニオ コレーア・デ・アラウホ、フランシスコ デイルータ、ジローラモ ファコリ、マルコ ファーナビー、ジャイルズ フレスコバルディ、ジローラモ・アレッシンドロ ガブリエーリ、アンドレア ガブリエーリ、ジョヴァンニ ギボンズ、オランダ メールロ、クラウディオ モーリー、トマス ルツァスキ、ルツァスコ マイオーネ、アスカニオ マッケ、ジョヴァンニ・デ メールラ、タルクイーニオ パスキューニ、エルコレ ピーター、フィリップス ピッキ、ジョヴァンニ プレトリウス、ミヒヤエル シャイデマン、ハインリヒ スヴェーリンク、ヤン・ピーテルスゾーン トムキンス、トマス トラバーツィ、ジョヴァンニ・マリア ヴァレンテ、アントーニオ

3. 17世紀

バッハ、ヨハン・クリストフ ボウモルティエ、ジョゼフ・ボダン・ド バステイン、ピーテル ブクステフーデ、ディートリヒ シャンボニエール、ジャック・シャンピオン・ド クラーク、ジェレマイア クレランボー、ルイ=ニコラ クーブラン、フランソワ クーブラン、ルイ クラーク、ジェレマイア クロフト、ウィリアム ダングルベール、ジャン・アンリ ダカン、ルイ・クロード デュパール、シャルル フィッシャー、ヨハン・カスパー・フェルディナンド フォルクレ、ジャン・バティスト・アントワヌ フローベルガー、ヨハン・ヤコブ グラウブナー、クリストフ ジャケ・ド・ラゲール、エリザベト・クロード ヘンデル、ゲオルク・フリードリヒ ファン・カバニーリエス、パウティスタ・ホセ ケルル、ヨハン・カスパー クリーガー、ヨハン クーナウ、ヨハン ル・ルー、ガスパー マルシャン、ルイ ムファット、ゲオルク パッヘルベル、ヨハン パスキューニ、ベルナルド パーセル、ヘンリー ロッシ、ミケランジェロ ラモー、ジャン=フィリップ サルヴァトーレ、ジョヴァンニ スカルラッチェ、アレッシンドロ スカルラッチェ、ドメニコ ストラッチェ、ベルナルド テレマン、ゲオルク・フィリップ ファン・ノールト、アントニ ヴェックマン、マティアス

4. 18世紀

アルブレヒツベルガー、ヨハン、ゲオルク アーン、トマス・オーガスティン バッハ、カール・フィリップ・エマヌエル バッハ、ヨハン・クリスティアン バッハ、ヨハン・クリストフ・フリードリヒ バッハ、ヨハン・セバ스티アン バッハ、ヴィルヘルム・フリーデマン バルバトル、クロード=ベニーニ ベートーヴェン、ルートヴィヒ・ヴァン クレメンティ、ムツィオ コレット、ミシェル チェルニー、カール デュフリ、ジャック ドウシーク・ヤン・ラディスラフ フィオッコ、ジョセフ・エクトール ハイドン、フランツ・ヨーゼフ フンメル、ヨハン・ネボムク キルンベルガー、ヨハン・フィリップ コジエルフ、レオポルト・アントニー クレープス、ヨハン・ルートヴィヒ モーツァルト、レオポルト（ヨハン・ゲオルク） モーツァルト、ヴォルフガング・アマデウス ミューテル、ヨハン・ゴットフリート ネーフェ、クリスティアン・ゴットリーブ プライエル・イグナツ ロワイエ、ジョゼフ=ニコラ=パンクラス サリエリ、アントーニオ ショーベルト、ヨハン

5. 19世紀以降

ファリヤ、マヌエル・デ・イ・マテウ リゲティ、ジェルジュ・シャーンドル マルティヌー、ボフスラフ オアナ・モーリス プーランク、フランシス・ジャン・マルセル ラヴェル、ジョゼフ=モーリス シュニトケ、アルフレート・ガリエヴィチ シュトラウス、リヒャルト・ゲオルク 武満 徹 クセナキス、ヤニス

6. 伝統・復興・改革

有賀 のゆり ブレ、ローランス ホイナツカ、エリーザベト ドルメッチ、ルドルフ フィゲイレド、ニコラウ・デギルバート、ケネス マリ、ゴードン ハーリッヒ=シュナイダー、エタ ホグウッド、クリストファー・ジャーヴィス・ハー

レイ カークパトリック、ラルフ コーネン、ロベルト ランドフスカ、ワンダ レオンハルト、グスタフ 鍋島 元子
レミ、ルドガー リヒター、カール ロス、スコット ルーヂコヴァ、ズザナ スグリッツィ、ルチアーノ 芝崎 久
美子 ヴェイロン=ラクロワ、ロベール

第5章 演奏法

1. 基本的技術

姿勢(身体的位置) 肘 前腕 手首・手・指 顔つき・身振り

2. 打鍵と離鍵

打鍵 離鍵

3. アーティキュレーション

スタッカート レガート 通常の進行 クラヴィコード特有のアーティキュレーション アーティキュレーション記号がない場合の演奏

4. 拍の序列

5. 17世紀頃までのスケールの運指法

オールド・フィンガリングとモダン・フィンガリング ドイツ イタリア スペイン イギリス

6. 18世紀以降のスケールの運指法

フランス ドイツ 2本一組の運指法とアーティキュレーション 3度及び6度が連続する場合の運指法

7. 演奏様式

アルペジオの速さ アルペジオが連続する場合の奏法 アッチャカトウーラ

8. イタリアの装飾音

グロッピ、またはグルッピ トレモロとトレモレット モルデント 前打音 アッポジャトウーラ

9. フランスの装飾音

装飾記号表 ポール・ドゥ・ヴォワ又はシュート ドゥブ又はカダンス ドゥーブル・カダンス トランブルマン又はカダンス パンセ ティエルス・クレ (又は3度におけるクレ) シュスパンシオン アスピラシオン

10. ドイツの装飾音

18世紀前半まで 18世紀後半 フォアシュラク トリラー ドッベルシュラク モルデント アンシュラク (ドッベルフォアシュラク) シュライファー シュネッター

11. イギリスの装飾音

第6章 記譜法

計量記譜法 プロポルツィオ テンポ・オルディナリオ アラ・プレーヴェ 速度標語 テンポ・ジスト メトロノーム ノン・ムジュレ

第7章 通奏低音

数字付低音 セグエンテ 楽器編成 教則本 パルティメント

第8章 教則本

『ファンタジア演奏の技法』(1557)
ミシェル・ド・サンランベール 『クラヴサンの諸原理』(1702)
ミシェル・ド・サンランベール 『クラヴサン、オルガンと他の楽器の伴奏新教則本』(1707)
ヨハン・ダーヴィド・ハイニヒェン 『通奏低音を完全に学ぶための新しい基本的指導』(1711)
フランソワ・クーブラン 『クラヴサン奏法』(1716/1717/1745)
ジャン-フランソワ・ダンドリュエ 『クラヴサン伴奏の原則』(1718)
ヨハン・マッテゾン 『通奏低音大教程』(1731)
ヨハン・ヨアヒム・クヴァンツ 『フルート奏法』(1752)
カール・フィーリップ・エマヌエル・バッハ 『正しいクラヴィア奏法への試論』(1753、1762)
レオポルト・モーツァルト 『ヴァイオリン奏法』(1756)
フリードリヒ・ヴィルヘルム・マルブルク 『クラヴィア奏法 美しい奏法をめざして』(1765)
ダニエル・ゴットロープ・テュルク 『クラヴィア教本』(1789)
ヨハン・ペーター・ミルヒマイアー 『ピアノフォルテの正しい演奏法』(1797)

第9章 曲集

1. 15世紀以前

『ロバーツブリッジ写本』 『ブクスハイム・オルガン曲集』 『ファエンツァ写本』

2. 16世紀

『フィッツウィリアム・ヴァージナルブック』 『マイ・レディ・ネヴェルス・ブック』

3. 17世紀

『ミュージクス・ハンドメイド 第1巻』 『ミュージクス・ハンドメイド 第2巻』 『様々な作曲家によるオルガンソナタ集』

4. 18世紀

『トッカータ、ヴォランタリーとフーガ』 『淑女の楽しみ、あるいは音楽の宴』

第10章 ジャンル

楽式 形式 様式 ジャンル ジャンル様式 インタプレーション

1. 厳格な様式の音楽

リチェルカーレ カンツォーナ フーガ

2. 自由な様式の音楽

プレリュード トッカータ ファンタジア

3. 定旋律による楽曲

イン・ノミネ プサルム ミゼレレ (ミゼレーレ)

4. 舞曲

パヴァーヌ パッサメッツォ パドヴァーナ ガイヤルド (仏)・ガリアルダ (伊) サルタレッロ アルマンド
クーラント (仏)・コッレンテ (伊) サラバンド (仏)・サラバンダ (伊) ジーグ (仏)・ジーガ (伊) プレメヌ
エット (伊)・ムニューエ (仏) パスピエ

5. コンチェルト様式の音楽

コンチェルトと協奏様式

6. 変奏曲

ディフェレンシアス パルティータ ヴァリアツィオ (伊)・ヴァリエーション (英) グラウンド (英) パッサカリア
(伊)・パッサカーユ (仏) シャコンヌ (仏)・チャコーナ (伊)

7. ソナタ

8. 描写音楽

第11章 音楽理論

ムシカ・ポエティカ 修辞学 音型論 感情論 調性格論

第12章 楽器製作者

1. 15世紀以前

アルノー、アンリ (ドウ、ズヴォレ)

2. 16世紀

バッフォ、ジョバンニ ブランシェー族 ドウニー族 ルッカース一族 ヴィンチェンティウス

3. 17世紀

クリストフォリ、バルトロメオ クーシェー族 ドンゼラーグ、ピエール ジュスティ、ジョヴァンニ・パティスタ ハス、
ヒエロニムス・アルブレヒ ハス、ヨハン・アドルフ ミートウケ、ミヒャエル ジルヴァーマン、ゴットフリート ファ
ーター一族 ヴォードリイ、ジャン・アントワーヌ ティボー、ヴァンサン ゼンティ、ジローラモ ツェル、クリスチャ
ン

4. 18/19世紀

ブロードウッド、ジョン ドウルケン、ヨハネス・ダニエル ドウルケン、ヨハン・ルードヴィヒ(II世) エラール・セバス
チャン グラーフ・コンラート エムシュ、ジャン、アンリ ホフマン、フェルディナンド カークマン、ジェイコブ
プレイエル、イグナツ シャンツ、ヨハン シュペート、フランツ・ヤコブ シュタイン、ヨハン・アンドレアス シュト
ライヒャー、アンナ・マリア (ナネッテ) タスカン、パスカル ヴァーグナー、ヨハン・ゴットローブ ヴアルター、アント
ン ズンペ、ヨハン

第13章 音律と調律

1. 音律

音律 音程 倍音 唸り 鍵盤 音律の分類 純正律 ピタゴラス律 音程比 計算 比率と周波数
セント唸りの算出 五度圏図 音名と五度圏 音程と五度圏 調と五度圏 音律と五度圏図 セントの計算方法

シントニック・コンマ ピタゴラス・コンマ 主な音律 シントニック・コンマ系の音律 純正律 ミーントーン
キルンベルガー（1779年） フレンチ・オルディネール ピタゴラス・コンマ系の音律 1/1：ピタゴラス律 1/3～5：
ヴェルクマイスター（1691年） 1/7～8：ジロー（2002年） バーンズ（1979年） 1/12：ナイトハルト（1724年）
平均律（19世紀中頃） 音律の補正

2. 調律

調律の手順 基準音（ピッチ） 基礎オクターブ（割振） オクターブ ユニゾン 4フィート 調律の操作 耳の
作業 左手の作業 右手の作業 調律変化の要因 温度 湿度 テンションバランス リバウンド 変化への対
策 基礎オクターブの割振表 割振表

第14章 メンテナンス

1. 正常な発音機構

アクション 鍵盤 ボディ

2. 変化の要因と処置

アクションの処置 鍵盤の処置 ボディの処置

3. 調整

鍵盤調整 ジャックの高さ調整 連打と首吊りの点検 スタガリング 総点検 ヴォイスング ノイズ その他の
症状と対応

索引

執筆者一覧（50音順）

伊藤一人 大岩みどり 太田垣至 大塚直哉 岡田龍之介 小川加恵 加久間朋子 加
屋野木山 久保田慶一 久保田彰 栗形亜樹子 小穴晶子 坂由里 廣澤麻美 本間み
ち代 森洋子 山縣万里 山名敏之 横田誠三 渡邊温子 渡邊孝 渡邊順生

👜 トートバッグ 特別販売 👜

この度、昨年「チェンバロの日！2019」で製作、販売しておりました日本チェンバロ協会オリジナルトートバッグを、協会の皆様だけに7月から9月までの3ヶ月間、限定販売させていただきました。新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、さまざまなイベントが中止や延期となり、チェンバロを楽しむ機会が少なくなっている今、チェンバロをデフォルメしたかわいいロゴ入りバッグをお楽しみいただき、さまざまなシーンでマイバッグとして（タイムリー！）ぜひご活用いただければと願っての特別販売となりました。

【日本チェンバロ協会 オリジナルトートバッグ】

～生地がしっかりしていて、底マチがあり、楽譜もしっかり収納♪～

[商品詳細]

- * 素材（綿100%） * カラー（グレー）
- * サイズ（縦35cm、横36cm、ショルダー47cm、底マチ11cm）

[価格]

- * 2枚ご購入の場合、2枚で2,900円とさせていただきます。

ご好評いただき、27枚を販売いたしました。ありがとうございました。



< 会員の演奏会・イベント情報の掲載依頼方法について > [2020年9月改訂]

ホームページおよび Facebook ページにおける会員皆様の演奏会・イベント情報の掲載について、皆様に公平に対応させていただくために、9月の運営委員会にて数点改訂いたしました。ご確認をよろしくお願いいたします。

会員（会員区分:会員）の方は、ご自身が出演される演奏会・イベントの情報を協会ホームページに掲載、また、Facebook 協会公式ページでの出演情報配信を行う事ができます。

- * 掲載・配信作業は担当者が行います。
- * **ホームページへの掲載はチェンバロで出演される情報のみ**とさせていただきます。Facebook ページには、そのほかの形によるご出演分も掲載することが可能です。

ご希望の方は下記の注意事項をご確認の上、「演奏会・イベントの文字情報」と「チラシ画像（任意/JPEG）」をメールでお送りください。

広報（コンサート情報担当）：concertinfo_jhs@yahoo.co.jp

[ご依頼にあたっての注意事項]

- * 演奏会・イベントの問い合わせ先（電話番号やメールアドレス等）を文中に必ず明記ください。掲載情報について協会ではお客様からの問い合わせには対応できません。また、掲載・配信の際は、いただいた文章を基本的にそのまま掲載し、こちらでの詳細確認はいたしかねますことをご了承ください。
- * Facebook ページでは、毎月2日と16日に配信を基本として行っております。よって、広報への情報送信の締め切りは、毎月1日および15日の午前0時です。
例) 8月14日に行われるコンサート情報を、8月2日以降に送っていただいた場合、Facebook ページでの配信はできませんが、ホームページには随時掲載いたします。
- * 年度をまたいだ掲載情報につきましては、前年度内での依頼受付は**新年度5月分まで**を受付いたします。以降の情報につきましては、新年度の協会員更新手続き後に受付をいたします。
- * 年会費未納の方、滞納されている方、また滞納などの理由で会員の資格を失った方は、ホームページ掲載および Facebook ページでの配信を依頼できません。**必ずご自身の年会費の納入状況をご確認ください**。納入状況が不明の場合は「年会費納入状況の確認」とタイトルを付け、お名前を明記の上、事務局にメールをお送りください。確認後ご連絡いたします。
- * ホームページ及び Facebook ページでの演奏会・イベントの情報掲載および配信は、会員の方の特典です。よって、**掲載依頼は会員本人からに限り**ます。掲載情報内容の詳細について、主催者やコンサートマネージャーから送信される場合も、**事前に会員ご本人から**その旨を広報までご連絡ください。

広報（コンサート情報担当）：concertinfo_jhs@yahoo.co.jp

- * サポーターの方が掲載・配信を希望される場合は会員区分を変更していただく必要があります。事務局へご相談ください。

事務局 : japan.harpsichord.society.jp@gmail.com

- * 事務局および広報共に、迅速な対応に努めておりますが、お問い合わせが集中する時期には、返信させていただくまで数日～1週間かかることもございます。なるべくお日にちに余裕をもってご連絡ください。

☆ 当協会ホームページ内「[会員による演奏会・イベント](#)」からご覧いただけます。

<https://japanharpsichordsociety.jimdofree.com/member-info/>

< 後援申請の手続きについて >

- * 会員（会員区分:会員）の方は、ご自身が出演される演奏会のチラシに「後援：日本チェンバロ協会」と入れることができます。
- * 後援名義使用をご希望の方は、① チラシを作成（事前の申請は不要）→ ② 演奏会までに、出来上がったチラシデータ（後援を記載したチラシ）を、日本チェンバロ協会事務局メールアドレス宛にお送りください。

データ送信先：japan.harpsichord.society.jp@gmail.com ※件名に「後援・チラシデータ」と明記してください。

- * メールでの送信が難しい場合は、チラシを1部、日本チェンバロ協会まで郵送ください。

郵送先：日本チェンバロ協会事務局 〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1丁目44-4 1階

- * チラシを作成される前に、必ずご自身の年会費の納入状況をご確認ください。納入状況が不明の場合は、「年会費納入状況の確認」とタイトルを付け、お名前を明記の上、事務局にメールをお送りください。確認後ご連絡いたします。
- * 年会費未納の方、滞納されている方、また滞納などの理由で会員の資格を失った方は、後援をつけられません。規約に反した場合、規約に則り対処させていただきます。
- * 後援記載は会員の方のみの特典です。サポーターの方は協会の後援を得ることはできません。サポーターの方が後援記載をご希望の場合は、会員区分を変更していただく必要があります。事務局までご相談ください。

< 更新手続き > 2020年度の更新手続きがお済みでない方（年会費未納の方）へのお知らせです。

- * お申し出がない限り、毎年自動継続となります。なるべく3～5月中の更新手続き（会費納入）をお願いいたします。
- * 年会費の入金確認ができ次第、新しい会員証を送付いたします。
- * 協会ホームページ内「会員専用ページ」の閲覧に必要なパスワードは毎年更新しており、その年度の年会費をお振込みくださった方に個別にお知らせしています。
- * 前年度分も未納の方は、あわせてお振込みください。
- * 年会費のお支払い状況が不明な方は事務局へお問い合わせください。事務局 japan.harpsichord.society.jp@gmail.com

【年会費】 会員：6,000円（学生：3,000円） サポーター：3,000円 法人・団体会員：10,000円

< 退会手続き >

- * 退会希望の旨を必ず事務局までご一報ください。
- * 年会費の未納は退会手続にはなりませんので、ご注意ください。年会費が未納でも、お申し出のない限り自動継続となります。（ただし、2年間の未納が続くと3年目に自動退会。その場合も未納分の支払い義務は消えません）

< 諸変更について >

- * 連絡先の変更、会員区分の変更がある場合には事務局までご連絡下さい。

< 賛助金の募集 >

- * より良い協会活動の実現のため、随時、賛助金を受け付けております。下記口座へお振込みの際は、その旨事務局までご一報をお願いいたします。

【賛助金】 会員・学生会員・サポーター：一口 3,000円～ 法人・団体会員：一口 10,000円～

< 年会費・賛助金お振込み先 >

ゆうちょ銀行

名義：日本チェンバロ協会
記号：10090 番号：07246611

※ ゆうちょ銀行以外の金融機関からお振込みされる場合

店名：〇〇八（ゼロゼロ八チ） 店番：008
預金種目：普通預金 口座番号：0724661

- * 振込用紙の送付は行っておりません。 * 手数料はご負担願います。
- * 年会費のお支払い状況に関するお問い合わせは、事務局までお願いいたします。

< その他 >

- * 最新のメールマガジン（第108号）を受信できていらっしゃらない方は、ご連絡ください。
- * 協会の運営に携わってくださる方を募集しております！詳細は、事務局へお気軽にお問い合わせください。



日本チェンバロ協会
Japan Harpsichord Society

会報第15号 2020年12月1日発行 発行人：岡田龍之介
編集：石川陽子、中田聖子、流尾真衣

日本チェンバロ協会事務局

住所：〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1丁目44-4 1階
メール：japan.harpsichord.society.jp@gmail.com
ホームページ：<https://japanharpsichordsociety.jimdo.com>